



中の
川よ
荒だ

青い雲



教育目標

「めあてをもち 自分で考え ねばり強くやり抜こう」

目指す生徒像：「あいさつがまん あとしまつ」ができる生徒

村上市立荒川中学校

令和5年度第4号

令和5年7月14日発行

一学期、ありがとうございました

校長

大雨を心配しながら梅雨の季節を過ごしています。全国各地でいつ、どこで豪雨により災害に見舞われるかわからない不安な日々です。そして梅雨が明けると、急に暑くなります。元気に過ごすために、水分を十分補給したり、適度に冷房を活用したりしながら、猛暑に対応して生活しましょう。

六月は部活動の下越地区大会が行われました。今年度から、地域スポーツクラブのチームも大会への参加が可能となり、より激戦となりました。勝てば「県大会出場」、負ければ「部活動の引退」という厳しい場面で、荒川中の生徒たちは、それぞれの競技において全力を尽くしました。各競技会場を回り応援しました。どの会場でも熱戦が展開されていました。対戦相手も必死ですので、正に「勝負は時の運」とも言えませんでした。荒川中の部活動は、元気なあいさつや大きな返事を習慣として、日々の練習に真剣に取り組みんでいます。大会前の激励会では、迫力があり、統制のとれたきびきびした動作の応援団から、力強いエールによって選手たちが勇気づけられました。試合に臨むにあたり、キャプテンが元気に選手や試合会場を紹介していました。下越地区大会での試合の結果や勝敗を振り返って学ぶことも大事な「あとしまつ」です。特に最後の大会となった三年生は、大会の結果をどのように生かしていくかが大切です。そこに、部活動を行ってきた

大きな意味があります。今までの取組を振り返り、改善につなげる。今後の生活に向けて、どのように取り組んでいくかをよく考えてほしいです。私も中学校の顧問の先生に、部活動の取組や試合の勝敗から、学んだことを生かして努力し続けることが、将来の目標達成や充実した生き方につながるかと教えていただきました。部活動や大会を通して得たことが、自らの成長につながるかと期待しています。

七月六日朝、坂町駅で福祉委員会の生徒が「社会を明るくする運動」に協力して、列車に乗降する人々に元気よくあいさつをしました。当校の卒業生で働いている方、大学生、専門学校生、高校生の皆さんも中学生に明るく答えてくださいました。その姿から、自然にあいさつのできる私たちあらかわの地域の素晴らしさを感じました。

地域の皆様から様々なご協力をいただき、お陰で今学期も大きな事故がなく、元気に休みを迎えることができそうです。荒川中生徒の「命、健康・安全」を第一とした教育活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。夏休みを有意義に過ごし、全ての生徒が、元気に二学期を迎えてくれることを切に願っています。一学期、大変お世話になりました。誠にありがとうございました。